

令和7年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立田川幼稚園

令和8年3月

大阪市立田川幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○本園は、2年保育の小規模園である。広い見渡しのよい園庭では、自分のしたいことを選んで伸び伸びと遊んだり、園舎内にも十分なスペースがあるため、各保育室を行き来して遊んだりすることができる。また、少人数であることを強みとし、一人一人の思いを丁寧に受け止め、個に応じた指導をすることが可能である。本園に通う幼児は、異年齢で活動する機会が多く、いろいろな遊びに興味をもったり、素直に喜びや楽しさを表したりして、園での活動を楽しんでいる。一方で、家庭での経験には個人差がある。幼稚園生活を通して、幼児が心身ともに安全・安心な環境の中で主体的に遊び、いろいろな人と関わって過ごす楽しさを味わえるような取組を通して、自分で考えたり、主体的に行動したりできるよう、本園の特色を生かしながら、家庭や地域と連携して進めていきたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は安全に対する意識や習慣が身に付くように取組んでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは友達との関わりを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は子どもの興味を広げる取組をしていますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは食べ物の種類や役割に関心をもつようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは絵本に親しむようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は取組内容を家庭や地域に発信しようと努力していますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は安全に対する意識や習慣が身に付くように取り組んでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは友達との関わりを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は子どもの興味を広げる取組をしていますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは食べ物の種類や役割に関心をもつようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 令和7年度の保護者アンケート「お子さんは絵本に親しむようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は取組内容を家庭や地域に発信しようと努力していますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

中期目標の初年度から最終年度まで、保護者アンケートでは、すべての項目において肯定的な回答の割合が目標を上回り、高い評価を維持することができた。今年度、少人数である特長を生かし、異年齢合同保育を進めてきた。教職員が様々な立場から幼児の実態を丁寧に把握し、一人一人の思いに寄り添った保育内容を工夫してきたことで、幼児が主体的に遊ぶ姿が多く見られるようになり、今回の評価につながったと考える。また、未就園児や近隣園、地域の方々との交流の機会を増やし、安心して遊べる環境を整えてきた。その結果、幼児はいろいろな人と関わることや、遊びの楽しさを共有することに喜びを感じるようになった。今後も、幼児一人一人の実態を丁寧に把握しながら、小規模園の強みを生かした活動の更なる充実を図っていく。併せて、家庭や地域への発信と連携にも積極的に取り組んでいきたい。

大阪市立田川幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は安全に対する意識や習慣が身に付くように取り組んでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは友達との関わりを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>非常変災時において、幼児が危機意識をもち、自ら安全に行動する態度を育む。</p> <p>指標・年10回以上、様々な想定避難訓練を計画し、実施する。</p> <p>・視覚的教材を活用した事前事後の指導を行う。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>友達や身近な人と一緒に活動し、様々な思いや考えにふれ、人と関わる力を育む。</p> <p>指標・月1回以上、地域の方々や未就園児など、様々な人と関わる活動をする。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>いろいろな友達と一緒に過ごす楽しさが味わえるような環境や保育内容を工夫する。</p> <p>指標・月1回以上、異年齢交流活動をする。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>○年度末の保護者アンケート「幼稚園は安全に対する意識や習慣が身に付くように取り組んでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合は100%であった。</p> <p>○年度末の保護者アンケート「お子さんは友達との関わりを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合は100%であった。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>① 2月末までに、避難訓練を11回実施した（火災3回、地震2回、地震・津波1回・引き渡し1回・防犯2回・預かり保育時1回・抜き打ち1回）。事前指導では、避難が必要な状況や行動が理解できるように、絵本やイラスト、ICTを用いて指導を行った。事後指導では、事前指導で使った視覚物を使ったり、避難後の場を見たりして振り返りを行った。1月に地震・津波の避難訓練を小学校と合同で行った。幼児が、高所へ避難する意味を理解したり、教職員が、幼児を安全に避難誘導する方法を再確認したりすることができた。毎回の訓練後に改善案を話し合い、非常持出袋の置き場所を変更するなどした。教職員の安全意識の高まりが幼児の安全に対する意識や習慣につながった。2月の抜き打ちの避難訓練では、幼児にも担当教職員以外にも知らせず実施した。教員は素早く指示し、幼児は慌てず速やかに避難</p>	

する姿が見られた。保護者には、避難時の幼児の様子を伝え、家庭でも非常変災時に備えてもらえるよう啓発した。よって達成状況をAとする。

② 月1回以上、地域の方や未就園児と関わる活動ができた。毎月3回程度、未就園児の園庭開放「ふれあい遊びデー」を実施し、未就園児と一緒に遊ぶ機会を設けた。季節に合わせた遊びや、在園児も未就園児も一緒に楽しめる遊びの場を考え、準備したことで何度も参加して下さる方が増えた。一緒に好きな遊びを楽しむ中で、名前を覚えて呼んだり、遊び方を教えたり、遊びに誘ったりしており、相手のことを思って行動する幼児が増えた。回を重ねるごとに、また来て欲しいという思いをもつなど、親しみをもって関わるようになった。また、近隣のこども園との交流を計画的に行った。最初は戸惑う様子もあったが、来てもらったり行かせてもらったりして経験を積み重ねたことで、名前を覚えてもらったり、自分たちが楽しんでいる遊びを一緒にしたりすることに喜びを感じるようになった。地域の方とは、一緒に花の苗を植える活動をしたり、食事サービスや子育てサロンを訪問して歌やダンスを披露したりした。地域の方々と近い距離で触れ合うことができ、帰園後も地域の方の姿が見えると手を振って挨拶する姿が見られ、親しみをもつことができた。小学生との交流では、1年生に憧れの気持ちをもった。今までいろいろな交流で自分を受け止めてもらう経験を積み重ねてきたことで、初めて会う1年生や他園所の同年齢児に自分から話しかけ、関わりを喜ぶ姿が見られた。よって達成状況をAとする。

③ 月1回以上、異年齢で活動することができた。6月からは毎日、異年齢で合同保育を行った。異年齢が共に楽しめるよう保育内容を話し合い、教職員全員で幼児に関わり、幼児一人一人の思いを受け止められるように連携した。歌や体操、好きな遊び、弁当等、園生活を一緒に送る中で、楽しいと感じる遊びや環境があるからこそ、4歳児は安心して過ごすようになり、5歳児は4歳児に対して自分なりに優しく関わろうとするようになった。1学期は、一人一人の好きな遊びを保育内容に取り入れたり、友達の遊びにも興味をもてるように振り返りの時間をつくったり、友達の遊びや姿が目に入るような環境を工夫したりした。2学期にはゲーム性のある遊びを取り入れ、同じチームの応援をしたり、みんなで競争する楽しさや勝った喜び、負ける悔しさを感じたりできるようにした。思いを共有できる仲間がいる喜びを感じ、みんなで団結する経験を積み重ねることができた。12月から取り組んだこま遊びでは、友達と刺激し合い、回せるようになるまで諦めずに取り組む姿が見られた。教員が幼児と共に喜んだり、悔しい気持ちに共感したりしてきたように、幼児もまた、友達の頑張りを共に喜び、励まし合うようになった。よって達成状況をAとする。

次年度への改善点

- ① 今後も幼児の実態に合わせた避難訓練及び事前事後指導を行う。
- ② 引き続き交流の遊びを工夫するとともに、計画的に交流の機会をもてるようにする。
- ③ 今後も小規模園ならではの異年齢での活動の充実を図る。

大阪市立田川幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は子どもの興味を広げる取組をしていますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは体を動かして遊ぶことを楽しんでますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケート「お子さんは食べ物の種類や役割に関心をもつようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>身近な環境に関わって主体的に活動できるように、幼児の興味・関心に沿った取組を工夫する。</p> <p>-----</p> <p>指標・年4回以上、自然環境の見直しを行い、実践したことを記録し、検討する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>進んで体を動かして遊べるよう、幼児の実態に合わせた活動や遊びの内容を工夫する。</p> <p>-----</p> <p>指標・週1回以上、全園児で体を動かす遊びや集団遊びに取り組む。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>友達や教師と一緒に食べることを楽しみ、幼児なりに食べ物への興味・関心がもてるような活動の工夫をする。</p> <p>-----</p> <p>指標・学期に1回以上、異年齢の友達と一緒に弁当を食べる機会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、幼児の食生活や実態に合わせた食育指導や食育だよりの配付をし、保護者啓発を図る。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>○年度末の保護者アンケート「幼稚園は子どもの興味を広げる取組をしていますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合は100%であった。</p> <p>○年度末の保護者アンケート「お子さんは体を動かして遊ぶことを楽しんでますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合は100%であった。</p> <p>○年度末の保護者アンケート「お子さんは食べ物の種類や役割に関心をもつようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合は87.5%であった。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>① 年4回以上、自然環境の見直しを行った。春は、身近な自然に関わり、興味もてるよう</p>	

に、園庭に季節の花や栽培物を植えたり、園内だけでなく園外の自然にも親しむことができるよう園外散歩や親子園外保育などを実施したりした。夏には、砂や水や泥の感触を全身で味わえるよう遊具を手作りするなどして環境を整えた。また、水により親しめるようにプール遊びの回数を増やした。秋には花や葉、実や種、ドングリを並べたり分類したりして手に取りやすいようにしたことで、ごちそうづくりやマラカスづくり、転がし遊びを楽しんだ。また、雲や葉の絵本や写真を用意したことで、葉の揺れや雲の様子を見たり、自分なりの言葉で教師や友達に感じたことを伝えたりする姿が見られた。冬には、親子で冬野菜を植えたり、自分の植木鉢にチューリップの球根を植えたりした。幼児の目につきやすい置き場所を検討したことで、毎日水やりをしたり、日々の生長に気付いたりする姿が見られた。冬の寒さに気付くよう、温度計を置くと、数字を見て「今日は寒い」「風が冷たいね」と友達同士で伝え合うなど、季節の変化を感じていた。窓から見える公園の様子の変化に自ら気づき、雪が降ったときには、すぐに園庭に見に行った。見るだけでなく、触れてみて、雪の冷たさや形の違いや溶けて無くなることを楽しむ姿があった。そのような幼児の姿から思いを読み取り、働きかけや環境、遊びの振り返りの様子を記録に取り上げて検討し、幼児が何に興味をもち、楽しいと感じているかを探ってきた。記録することで、目の前の幼児の実態に即した保育を考えるだけでなく、教職員全員で幼児理解することにもつながった。よって達成状況をAとする。

② 週1回以上、園庭やプレイルームで体を動かす遊びを存分に楽しんだ。体操やサーキット遊び、縄遊び、ボール遊び、鬼遊び、固定遊具を使った遊びなど幼児の実態や発達に即した遊びを週案に記載し、計画的に取り組んだ。リレー遊びでは、初めは友達と並んで走ることを楽しいと感じていた。チームで競争することに興味をもてるよう、回数を重ね、知らせたことで、勝ち負けがある面白さや楽しさに気づき、幼児が主体となってリレー遊びや鬼遊びをするようになった。12月からはマラソンごっこをした。徐々に走る時間を伸ばしたり、自分たちで何周走るか目標を決めて走ったりした。体が温まることで怪我の防止につながり、体を動かす楽しさを味わいながら寒くても元気に遊ぶことができた。縄遊びでは、5歳児が取り組んでいた大縄に4歳児も興味をもち、真似をして跳ぶようになったため、より意欲的に遊べるよう、いろいろな跳び方や遊び方を、視覚物を用いて知らせた。友達が挑戦している姿に興味をもち、互いに刺激し合いながら、難しいことに何度も挑戦したり、跳べた喜びを友達と共有したりするようになった。生活発表会では、そのような縄遊びの様子を保護者にも見てもらい、沢山の人が認められたことが自信につながり、進んで他の運動遊びにも取り組む姿が増えたり、諦めずに取り組む気持ちをもったりした。よって達成状況をAとする。

③ ・学期に1回以上、友達や教師と一緒に弁当を食べる機会を設定した。また、日頃から実態に合わせて弁当の時間や食べることが楽しくなるような声かけや配慮を行った。友達や教師と一緒に食べることや同じおかずが入っていることで「おいしいね」と思いを共有し、喜ぶ姿が見られるようになった。友達の弁当のおかずに興味をもったり、幼稚園で育てた野菜を弁当に入れてもらって嬉しそうに話をしたりし、食事の時間を楽しく過ごす姿が見られるようになった。

・学期に1回以上、幼児の実態に合わせて食育指導を行った。歯や口腔機能の発達を促すことができるよう、1学期は、あいうべ体操や口の筋肉を鍛える遊びを通して、幼児が楽しみながら取り組める指導を行った。指導後は、食育だよりや降園連絡を通して、指導内容について保護者啓発を行った。幼児の実態を捉え、ねらいを絞って取り組んだ結果、「沢

山嚙んだら、ご飯がもっと美味しくなる」と話す幼児の姿が見られ、弁当には色々な種類のおかずが入るようになった。2学期は、“食べ物の種類や役割に関心がもてる食育”に取り組んだ。身近な食べ物を「陸の食べ物」と「海の食べ物」に分けることを楽しんだり、食べ物によってうんちの様子が変わることについて指導したりした。また、保護者に協力を得ながら「食べ物探しカード」や「健康チェックカード」に取り組んでもらい、家庭生活でも食にふれ、うんちを観察し自分自身の食を見直すきっかけをつくった。指導した結果、昼食時に「陸の食べ物」と「海の食べ物」を探してみたり「昨日も今日もバナナうんちだったよ」と話したりする姿が見られた。3学期は、食べ物の栄養に興味をもてるように3色栄養かるたを作成し、遊びながら栄養について知ることのできる機会をつくった。日頃親しんでいるかるたを用いたり、食べ物の役割を3つに色分けして知らせたりしたことで、「体をつくる（赤）」「体を守る（緑）」「エネルギーになる（黄）」食べ物があることを知った。指導後、昼食時の弁当に入っている食べ物が何色の仲間かを自分で考えようとする姿が見られるようになった。よって達成状況をAとする。

次年度への改善点

- ① 自園の自然環境を再度見直し、幼児が身近な自然に興味をもてるよう環境を整える。
- ② 今後も幼児が進んで体を動かしたくなる遊びや環境を整え、活動を工夫する。
- ③ 幼児の実態や食生活を丁寧に把握することに引き続き取り組み、実態に合わせた食育指導と保護者への啓発を継続する。

大阪市立田川幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度の保護者アンケート「お子さんは絵本に親しむようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケート「幼稚園は取組内容を家庭や地域に発信しようとしていますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況	
<p>取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>互いに学び合うことで、教員の資質向上に努める。</p> <p>指標・年1回以上、全教員が絵本や視覚的教材を用いた園内研修を行う。</p>	A	
<p>取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>幼児が絵本に親しめるよう、環境や取組を工夫する。</p> <p>指標・月1回以上、絵本棚を整えたり、絵本を使った活動を取り入れたりする。</p>	A	
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>家庭・地域等と連携・協働していけるよう、教育内容や取組・幼児の育ちなどを広く発信する。</p> <p>指標・年10回以上、就学前教育カリキュラムを活用した保育内容についての掲示物を作成し、家庭や地域に発信する。</p>	A	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>		
<p>【年度目標】について</p> <p>○年度末の保護者アンケート「お子さんは絵本に親しむようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合は100%であった。</p> <p>○年度末の保護者アンケート「幼稚園は取組内容を家庭や地域に発信しようとしていますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合は100%であった。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>① 年度当初に計画を立て、次の表の通り実施した。</p>		
実施月	対象	内容
5月	4歳児	教師や友達と一緒に体で表現して遊ぶ 絵本「パンダなかよしたいそう」
6月	4・5歳児	泥遊びをする 視覚的教材「前回の遊びの写真」
9月	4・5歳児	自分の好きなことや嫌いなことが何かを考える 絵本「すきってどんなきもち？いやっていえるかな？」
9月	4・5歳児	野菜の断面の面白さを感じながらスタンプ遊びを楽しむ 絵本「やさい ぺたぺた かくれんぼ」

11月	4・5歳児 保護者	人間の誕生について 絵本「おなかのあかちゃん もういいか〜い？」
<p>保育中の動画を撮影し、見返すことで見えていなかった部分に気付いたり、教員自身や幼児の発言を振り返ったりする機会になった。保育後は、協議用シートに全員が記入し、教育的意図をもった働きかけや環境、良さや改善点等が振り返られるよう検討会を行った。検討会を通して、幼児の実態をどのように受け止め、なぜその教材を選んだかという思いを知ったり、いろいろな絵本の教材研究になったり、視覚的教材を活用した保育の展開を学んだりすることができた。11月の園内研修は、保護者参加で実施した。保護者にも絵本の内容がより伝わりやすいよう、新生児を模した人形を作成し、重さを体感できるようにした。保護者は出産時のことを話したり、幼児は「赤ちゃんは重い」と話したりして、親子で人間の誕生について向き合うことができた。よって達成状況をAとする。</p> <p>② 月1回以上、絵本棚を整えたり、絵本を使った活動を取り入れたりすることができた。誕生会では、寸劇やペープサートやパネルシアターを用いて、教員からのお話のプレゼントをした。絵本のお話をもとに、幼児の興味や実態に合わせた教材を手づくりで準備した。その後、使用した教材は幼児がいつでも手に取れるところに置き、遊べる環境を整えた。また、誕生会后すぐに、紹介した絵本や同じシリーズの絵本を絵本棚の目につきやすい場所に置いたことで、紹介した絵本を手取る姿や、お話の遊びを楽しむ姿が見られた。今年度は、絵本の会を2回実施し、2回目は保護者の方にも参加していただいた。普段絵本を読んでいる教員以外の人に絵本を読んでもらったり、絵本だけでなく、紙芝居や大型絵本など、いろいろなお話を見たり聞いたりする機会となった。誕生会や絵本の会で読んでもらった絵本を気に入ったり、同じ絵本を絵本貸し出しの際に借りる幼児が増えた。保護者アンケートでは、「『絵本を読もう』と誘うとすぐに来て、ページをめくりだし、一緒に読もうとする」という声があり、家庭でも絵本に親しむようになった。よって達成状況をAとする。</p> <p>③ 1月末までに9回、就学前教育カリキュラムを活用した掲示物を作成し、保護者に教育内容や幼児の育ちを伝えた。同様に作成し、発信する機会が2月末と3月にあり、計11回実施予定である。掲示物作成時には、知徳体の視点が分かりやすいように工夫した。ホームページにも掲載し、地域に発信した。1学期終業式には1学期分の、3学期始業式には1～2学期分の掲示物を全て掲示し、どちらのクラスの姿や育ちも見てもらえるようにした。また、ICTを活用し、文科省の遊びの中での学びの動画や、日々の写真や動画を用いて、園でしている遊びの大切さを発信した。ホームページのレイアウトを工夫して見やすくしたり、更新回数を増やしたりした。未就園児園庭開放の来園者数が昨年度より増えており、園児の育ちや様子をホームページで発信することは、地域の方に園の取組に興味をもってもらおうことにつながっていると分かった。降園連絡では、その日の活動や幼児の姿、様子、つぶやきなどを、写真や幼児がつくったもの、遊びに使ったものなどを用いて伝えた。保健指導実施後には、特に丁寧に伝え、家でも取り組めるようなワークシートを配布するなどして、連携を図れるような発信に努めた。保護者は、関心をもって話を聞いたり、行事アンケートで、幼児の育ちや変容について具体的に記載したりしてくれた。よって達成状況をAとする。</p>		
次年度への改善点		
<p>① 今後も教員の資質向上に努め、園内研修を行う。</p> <p>② 計画的に絵本の入替えを行う。</p> <p>③ ホームページの活用を積極的に行う。</p>		